団体名	福山市	所　属	農林水産課	他団体等との連携	各地域団体
連絡先	林務担当　(084)928-1032				

取組事例名	里山里地再生保全事業	取組期間	平成２４年度～平成２６年度

取組の概要　～　地域，ボランティア，行政の協働による里山里地の再生保全活動

里山里地の荒廃が進む中，平成２４年度から平成２６年度までの３年間，福山市内に４モデル地域を指定し，地域が主体となって実施する里山里地再生保全活動を市民ボランティアと行政が支援する取組を行う。このモデル事業から得たノウハウをもとに持続可能な里山里地の仕組みづくりを行う。

取組の背景　～　里山里地の荒廃

里山里地は，古来より地域独自の歴史や文化を育んでいる。しかし，高齢化，過疎化等の進展により，耕作放棄地や有害鳥獣被害が拡大するなどの問題が発生し，里山里地の持つ良好な環境や生物多様性への寄与などの多様な機能が低下している。

取組のねらい　～　持続可能な里山里地の仕組みづくり

“癒し”や“安らぎ”を与える豊かな自然景観など，農村の持つ資源を生かし，“野良仕事”“山仕事”“イベント”等で都市部住民と農村をつなぎ，里山里地の再生・保全活動を支援することで，過疎や高齢化などに起因する地域課題を解決し，農山村の活性化を図る。

取組の具体的内容　～　地域，市民，行政の３者協働による里山里地の再生保全

公募により市内４地区をモデル地域に指定し，地域が主体となって実施する「里山里地再生保全事業」を市民ボランティアである「里山里地協力隊」が支援する。

行政はモデル地域への財政支援や，地域と協力隊の情報伝達，協力隊への機材の貸し出し，機器の使い方指導（技術指導・安全指導），保険加入などの支援を実施している。

（１）里山里地モデル地域支援事業

里山里地モデル地域が実施する「里山林の整備・管理」，「水路・農道等の改修・管理」及び「地域を活性化させる活動」を３年間（平成２４年度～平成２６年度）支援

≪モデル地域の概要≫

名　称	服部本郷地区 里山里地モデル地域	ボチボチ 里山里地モデル地域	やまの 里山里地モデル地域	山手･津之郷 里山里地モデル地域
所在地	駅家町服部本郷	赤坂町赤坂	山野町山野	山手町･津之郷町津之郷
面　積	3.0 ha	9.0 ha	34.0 ha	11.5 ha
計　画	間伐杉まくらの開発	竹炭生産･椎茸栽培	水車活用（改修）	散策道整備
	有機農業	耕作放棄地再生	古民家再生	防護柵設置
	イベント開催	防護柵･わな設置	耕作放棄地再生	昆虫産卵場造成
	耕作放棄地再生	里山体験学習（小学校）	炭窯活用（改修）	桜植樹（卒業記念）
	ジャム加工品	作業小屋整備	イベント開催	耕作放棄地再生

（２）里山里地協力隊支援事業

地域（モデル地域含む。）と協働で里山里地再生・保全活動を行う「里山里地協力隊」を組織し，その活動を支援。里山里地協力隊員は，市民，ＮＰＯ，企業，大学，及び各種活動団体等から募集し，個人又は法人等での登録制とする。

≪支援内容≫

・里山里地の再生・保全に必要な草刈機，チェーンソー，ヘルメットなどを協力隊へ貸出
・チェーンソーなどの研修を参加費無料で実施
・出動回数に応じて参加特典（帽子，Ｔシャツ等）

取組を進めていく中での課題・問題点　～　人材育成，仕組みづくり

（１）地域活力による持続可能な取組の検討

里山里地モデル地域事業は，３年間の活動補助事業である。行政による財政的支援が終了した後においても，地域で継続して活動される必要がある。

（２）里山里地協力隊（ボランティア）の継続的な参加

里山里地協力隊（ボランティア）の継続的な参加を促す仕掛けが必要である。

創意工夫した点　～　ニーズをつなげる

“野良仕事”や“山仕事”は都市部住民にとって非日常的な活動であり，ライフスタイルが多様化する中で，これらの活動に興味を持つ市民が存在することが予想された。

里山里地を素材として互いのニーズをつなげ，持続可能な農山村の在り方を検討した。

（１）持続可能な地域活動に着目した評価

財政的支援終了後においても，事業が継続的に実施されることの見極めが重要であることから，地域の意欲や組織態様（１０戸以上で代表者の定めがある組織を最低限の要件とする），ボランティアなど地域外の住民との協働を受け入れられる土壌がある等の点に着目した評価を行った。

また，耕作放棄地の再生活用や鳥獣被害対策，里地里山の資源活用といった６つのメニューから２つ以上を実施することを応募の要件とし，地域の本気度を推し量ると共に，審査員による現地確認の実施などにより計画の実現性の評価をしっかり行った。

（２）“やりがい”や“楽しみ”の要素

里山里地協力隊（ボランティア）にとっての“やりがい”や“楽しみ”の要素を地域活動の中に盛り込んでもらうことを各地域に依頼し，実施している。

例：草刈機の操作，麦の収穫体験，地元食材によるお弁当

（里山女子）

（除草作業風景）

取組の成果（効果）～　地域活力の醸成

事業実施を通じて，地域住民が里山としっかり向き合い，里山のよさに気付く機会となったことで，就農を目指す方も出てきている。

また，里山里地協力隊（ボランティア）は，７月末現在８５名が登録しており，地域の支援活動にもコンスタントに１０～２０名の参加があり，地域外の住民が参加することで，地域活動に活力が感じられる。

また，里山里地協力隊の中には，この事業を通じ，その地域に移住したケースも出てきており，中山間地域の活性化につながっている。

今後の展開　～　ポストモデル事業の仕組みづくり

（１）協力隊の強化，自立に向けた取組の実施
（２）ポストモデル事業の方針を検討，策定
（３）持続可能な地域活動へ向けた地域とのネゴシエーション
（４）企業協定の推進（地域を支援する企業との協定の締結）

他団体へのアドバイス　～　根源は地域活力

事業が成立するためには，地元の活力が不可欠であるため，活動母体の活動状況や今後の見通しなど，その見極めが重要であり，また，多くの住民や団体が参画している活動であることが望ましい。